

# 輸入粗飼料の情勢

全 酪 連  
購 買 生 産 指 導 部  
購 買 推 進 課

## 北米コンテナ船情勢

米国西海岸における北米西岸港湾労組（ILWU）と雇用主団体（PMA）の労使交渉はターミナル施設の自動化について合意しましたが、賃金と年金給付に関する交渉は難航しています。6月に入り北米西岸港湾労組（ILWU）が各港で抗議活動を始め、6月上旬にターミナルの一部を閉鎖する措置を取りました。現在、各港では通常稼働となっていますが、労使交渉が長引くにつれ再び抗議活動が発生する可能性もあるため、今後も経過には注視が必要です。

## ビートパルプ

【米国】

22-23年産の製糖作業及びビートパルプの生産は終了しています。23-24年産のビートパルプの生産については現在、播種作業が進められています。産地では冷涼な気候により播種作業の進捗が遅れていましたが、5月末に天候が回復したため、例年通りに播種が終了した地域も見られています。23-24年産のビートパルプの市場については、シカゴ相場におけるトウモロコシや大豆相場の下落を受け、米国内では需要を見極めている状況のため、相場変動には注視が必要です。

## アルファルファ

ワシントン州

主産地であるコロンビアベースンでは、春先の冷涼な気候により例年より生育が2～3週間遅れましたが、5月中旬から南部で23年産1番刈の収穫作業が開始されています。南部では一部で降雨被害があったものの、概ね順調に進捗し、現在では収穫作業を終えています。収穫されたアルファルファの一部では成分の高い高級品も発生しています。

コロンビアベースン北部では1番刈の収穫作業が中盤に差し掛かっています。南部に比べて降雨被害が出ていますが、その後は天候も暖かく乾燥した気候で収穫作業が進行しています。

輸出向けでは中東向けに少量のアルファルファの買付を行った輸出業者はいるもの

の、22年産の産地相場が歴史的な高値となった影響で、多くの輸出業者は繰り越し在庫を抱えており、産地相場を慎重に見極める動きが続いています。そのため、例年よりも遅い買付進捗になる見込みです。

## カリフォルニア州

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは現在3番刈の収穫が行われており、圃場によっては4番刈の収穫が開始されています。産地では35℃を超える気温のため、上級品の発生は減少しており、中級品中心の発生となっています。年明け以降、米国乳価が軟化している影響や輸出向けの需要が低調なことから、産地相場は前年同時期と比べ軟化傾向にあります。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、5月15日時点でのアルファルファの作付面積は152,480エーカー（前年同期は133,598エーカー）と前年同期比114%と増加しており、過去10年間で最高水準の作付面積となっています。

## 米国産チモシー

主産地であるワシントン州コロンビアベースン及びエレンズバーグでは、温暖な気候が続き、順調に生育しています。コロンビアベースン南部では5月下旬から23年産1番刈の収穫作業が開始されています。一部の圃場で降雨がありましたが、雨当たり被害は軽微なものとなっており、収穫作業は今後本格化する見込みです。産地の多くの輸出業者は22年産の旧穀在庫を抱えており、需要が低迷することが予想されるため、23年産の作付面積については前年比5～10%程度減少すると見込まれています。

## スーダングラス

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、早い圃場で5月下旬より23年産の収穫が順次開始され、今後収穫が本格化する見込みです。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、6月1日時点での作付面積は24,704エーカー（前年同期は42,524エーカー）となっており、前年同時期比58%となっています。多くの輸出業者は22年産の繰り越し在庫を抱えているため、慎重な買付になることが予想されます。

また、産地の水源であるネバダ州ミード湖の水位は4月上旬まで過去最低水準に落ち込んでいましたが、生産者の節水や雪解け水により水位は上昇しているため、懸念されていた水不足の心配はありません。

## クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、1 番刈の収穫は終盤を迎えており、圃場によっては6月上旬より2番刈の収穫が開始されています。これまで収穫された1番刈の品質は良好で葉量が多く柔らかな上級品の発生が中心となっています。一部では雑草混じりや刈遅れの品質が発生したものの、近隣の酪農家や肥育農家向けに出荷されています。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、5月15日時点でのクレイングラスの作付面積は22,170エーカー（前年同期19,131エーカー）となっており、前年同時期比116%と増加しています。



（23年産クレイングラス 6月上旬 インペリアルバレーにて撮影）

## バミューダ

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレー灌漑局の発表によると、5月15日時点の作付面積は64,852エーカー（前年同期61,718エーカー）と前年同期比105%の作付面積となっています。現在、産地では多くの圃場で種子の生産を行っておりバミューダヘイにおける収穫作業は7月上旬より本格化する見込みとなっています。一部の圃場でバミューダヘイの生産が行なわれていますが、大半が米国内需の馬糧向けに販売されるため、種子生産が終了しバミューダヘイの生産が本格化する夏場までは輸出向けの供給は限定的となる見込みです。

## カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区では、冷涼な気候が続いていましたが、5月に入り30℃近くの乾燥した気候が続き、降雨も少なかったため、旱魃の状況となっています。クレモナ地区は非灌漑での生産となるため、今後の生育に向け降雨が

望まれています。1番刈の収穫は7月上旬頃からの開始が予想されています。

同州南部のレスブリッジ地区では、温暖な気候で5月の降水量は昨年より減少しましたが、6月に入り降雨があり、順調に生育しています。

## 豪州産オーツハイ

23年産の播種作業は多くの地域で順調に進みが終盤を迎えています。東豪州や南豪州の輸出業者は22年産低級品の繰越在庫を多く保有していると予想されますが、近隣の生産者や各国からの輸出需要も引き合いが増えていることから、作付面積については増加する見込みとなっています。5月の降雨量は各地で概ね例年並みとなりましたが、6月に入り乾燥が強まる予想のため生育期の降雨不足が心配されています。

また、一部の報道で中国で輸入規制がかけられていた石炭や木材といった品目の輸出が5月以降再開されており、今後の豪中間の貿易緩和については注視が必要です。

以上